



空き家に魅せられて

空き家を活用した家族の住まいづくり

▲西方寺平の空き家を改修して暮らす橋本さん一家

見え方の違う空き家

誰も住んでいない空き家。これは、地域の活力や安全・安心にも影響を及ぼします。では、空き家はどのように活用すればいいのでしょうか？「古い、掃除が大変だし、誰も欲しがらない」と自分の持つ空き家は価値が低いものと思っている人は多いのではないのでしょうか。しかし、他の人を見ると魅力的に見えることがあります。

古くからある物件は、大きな梁や太い柱がありレトロな雰囲気や漂う物件かもしれません。広くて掃除が大変な空間は、子ども達が伸び伸びと遊べる貴重な空間になり得ます。また、少し手を加えることで、住む人のライフスタイルに合った家に生まれ変わることもあります。自分とは違う価値観を持つ人に譲ることで空き家は空き家ではなくなり、その家に住む家族の人生を彩る、大切な「場所」や「時間」として再び輝き出す力を秘めているのです。

市では、その空き家が再び定住の場として地域に灯りをともしの手伝いをします。まちなかや農漁村部に空き家を持っているあなた。空き家情報バンクに登録しませんか？

《移住・定住促進課》

家財撤去に10万円補助

空き家を貸す際には家財などの片付けが必要で、それには労力と費用が必要です。市では、バンク制度を利用した物件の売買契約か賃貸契約の成約時に、家財道具の撤去費用に対して1件あたり10万円を支援しています。
※一部地域に限ります

空き家の登録を

空き家が放置されると、税金などがかかる個人の問題だけでなく、景観や衛生、さらには倒壊など安全・安心に影響を及ぼす地域社会の問題に発展します。その対策の一つとしても「空き家情報バンク制度」への登録をお願いしていますが、まだまだ登録されていない空き家がたくさんあります。この状況に対して、移住を決めた世帯は年々増加しています。

移住希望者はバンクに掲載されている空き家の数だけ選択の幅が広がります。どの地域に居住するかという人生の大きな選択の分岐点にもなります。空き家の登録は、そんな人たちの大きな支援になります。

【特集】空き家に魅せられて

空き家情報バンク

移住者の受け入れは、空き家の所有者も地域も不安なものです。不安の解消には、移住者を知り、移住者にも地域を知ってもらうことが大切です。

市では「空き家情報バンク制度」を創設し、移住者を地域ぐるみで受け入れられるように支援しています。この制度は空き家を売りたい人・貸したい人と移住希望者とをマッチングさせる仕組みです。空き家の利活用と地域の活性化、そして移住希望者と受け入れ

る地域の双方が、不安なくスムーズに暮らせるようにしています。登録は無料ですが、現在、登録できる地域はJR東西駅中心の「まちなかエリア」と市街化区域以外の「農漁村エリア」です。一部地域では、売買や賃貸の成約時にリフォーム補助（13%に関連記事）や市と協定を結んだ宅建業者などの専門事業者のサポートがあります。

空き家情報バンク

